

# 埋蔵文化財センターによる動画の公開

小久保拓也（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館）

Producing and Publishing Videos on Archaeological Resources in Hachinohe City

Kokubo Takuya (Korekawa Archaeological Institution)

・動画公開／Video streaming・映像記録媒体／Recording medias

## 1. はじめに

埋蔵文化財の動画は、遺跡の発掘調査の記録として、さらに活用のために製作されてきた。動画は記録メディアの変化に伴って扱いが容易となり、さらにインターネットの普及により、公開も容易になっている。さらに近年は、インターネットを介した動画のライブ中継が手軽になり、双方向の情報伝達が行われている。本稿では、八戸市が取り組んできた動画の制作と公開を振り返ってみたい。

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館は、八戸市内の発掘調査や研究、保存と活用をはかり、是川石器時代遺跡の史跡整備を担うため2011年7月に開館した市立の施設である。同館には埋蔵文化財の整理・収蔵を行うスペースのほか、常設展示室・企画展示室・体験交流室があり、「縄文の美」の常設展示や、縄文をテーマとした企画展示、ものづくり体験をはじめ各種講座を開催し、年間約3万人の来館がある。

## 2. 埋蔵文化財と動画

### (1) 動画の役割

動画は、図面・写真・測量（三次元計測）データとは異なり、記録された場面の状況を第三者にわかりやすく伝えることは言うまでもない。そうした特性から、発掘調査現場のようすを伝える記録として撮影され、活用されてきた。

八戸市においても、教育委員会が中心となって、視聴覚教材としての撮影、地元テレビ局等による番組撮影が行われ、歴史や縄文に関する視聴覚教材が作成された。これらの動画は、8ミリフィルム等で記録されたものであり、完成した番組が、VHSテープやDVDとして、当館や市内の視聴覚センターに保管され、現在も各学校へ貸出可能な状態となっている。

本年8月には、奈良文化財研究所ウェブサイト「全国遺跡報告総覧」に文化財動画ライブラリーが開設され、全国の自治体や博物館、埋蔵文化財センター



図1 民生用の映像記録媒体  
カセット式磁気テープ (1.VHS 2.ベータ 3.VHS-C 4. MiniDV 5.HDV)、メモリーカード類 (6.xD ピクチャーカード 7. メモリースティック 8. スマートメディア 9. コンパクトフラッシュ 10.SDカード)  
※2～8は生産が完了しているため、レガシーメディアとも呼ばれる

が制作した動画が登録・公開された。同ページは検索機能を備えており、文化財の所在地・種別・時代・動画種別といった分類がされ、キーワードからの検索も可能となっている。その「動画種別」で動画は、「文化財紹介・解説」「展示解説」「講演会・現地説明会」「施設紹介」「その他」の5項目に分類されており、多様な活用のようにすをみることができる。

## (2) 発掘調査の記録と保存

八戸市では、発掘調査の記録のため、2000年頃から、史跡是川石器時代遺跡の内容確認調査を中心に動画を撮影してきた。実際は、緊急発掘調査を進めていく職員が、動画撮影を兼務することは八戸市では難しく、重要な場面に限って撮影する程度であった。当時のビデオカメラの記録メディアは、MiniDVやHDVといった磁気テープを使っていた。一部はメモリーカードを使っていたが、2000年代初頭のデジタルカメラの動画解像度は320/15Pや640/15P程度であった。MiniDVやHDVによる史跡是川石器時代遺跡の発掘調査の記録動画は、是川縄文館の開館に伴う新しい展示室の解説用動画に利用した。

VHSなどの磁気テープは、映画フィルムほど保存期間に優れていないとされており、保管には適切な温湿度環境や縦置き保管、定期的なテープ送り・巻戻しが必要であり、状況が悪いと30年ほどで視聴できなくなる可能性が指摘されている（映画保存協会2019）。今後は保存のため、各メディアの再生機器を確保してデジタル化を行い、バックアップを作成して保存していく必要がある。

## (3) 動画による教育普及と広報活動

このほか、八戸市教育委員会では、2007年に、史跡是川石器時代遺跡の教育普及とPR用動画「縄文はっけん！行ってみよう！是川遺跡」を業者委託によって製作した。この動画は、縄文博士が是川遺跡の縄文文化について小学生に紹介する番組である。学芸員は出演せず、地元の舞台俳優が縄文博士を演じた。同作品はDVDとして市内の学校に配布したほか、視聴覚センターに配備されている。

八戸市教育委員会は、2005年から2008年にかけて、是川中居遺跡の漆製品について復元制作事業を行い、製作と動画記録を合わせて委託した。この動画は、発掘調査の動画と同様に、是川縄文館の開館に伴う新しい展示室の解説用動画に利用した。

「じょうもん発見！是川縄文館」は、八戸テレビ放送株式会社と当館が共同で製作した同社ケーブルテレビ用の番組である。開館の認知度向上を目的に2011年から2012年にかけて全24回が制作され、同局でリピート放送された。

番組は、同社アナウンサーが学芸員とやりとりをしながら、是川縄文館や遺跡を探検する、5分程度の番組という基本スタイルと24回分の分担案のみで制作をはじめた。各回は担当者が台本を書いて主演し、撮影・録音・編集は同社が行った。内容は大まかに5つあり、①是川縄文館について、②是川石器時代遺跡について、③発掘調査について、④出土品整理について、⑤世界遺産登録について紹介するものである。放送時は、その時々イベントの告知

映像（動画）タイトル	メディア等	収録時間	概要
縄文のふるさと	VHSテープ	22分	縄文のふるさと、是川遺跡の全貌を克明に収録している
はるかなる縄文	VHSテープ	18分	(未確認)
縄文の暮らしを訪ねて～是川遺跡と亀ヶ岡文化～	VHSテープ	16分	遮光器土偶と一緒に是川遺跡を探検 RAB
一万年王国－青森県の縄文時代－（1996）	VHSテープ	58分	縄文時代晩期の工芸的な出土品から晩期縄文文化を考える映画
縄文はっけん！行ってみよう！是川遺跡（2007）	DVD-R	16分	縄文博士と一緒に是川遺跡を探検する
じょうもん発見！是川縄文館（2011-2012）	動画公開サイト	5分程度	全24回 HTV 2014～ 動画公開
合掌土偶、大洞式土器（2018）	動画公開サイト	2:37	縄文－1万年の美の鼓動 応援メッセージ <a href="https://youtu.be/z2PKuMGiTnA">https://youtu.be/z2PKuMGiTnA</a> ( <a href="https://www.facebook.com/jomonkodo/">https://www.facebook.com/jomonkodo/</a> )
推しテン！（2019）	動画公開サイト	1:01	〈ゆる土偶〉 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=0wSStOS500A">https://www.youtube.com/watch?v=0wSStOS500A</a>
		2:16	〈指紋付き容器〉 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=sqx-kuqmnkU">https://www.youtube.com/watch?v=sqx-kuqmnkU</a>
		1:39	〈イモガイ？〉 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=5RGm_spVapg">https://www.youtube.com/watch?v=5RGm_spVapg</a>

図2 八戸市が製作協力・制作した動画

が追加された。

#### (4) 動画公開による広報

高速インターネット回線の普及と、スマートフォンの進化によって、動画は、撮影から公開が容易になり、それまでの放送や上映による情報伝達から大きく変化を遂げている。動画の公開には、ホームページ等が格納されている自サーバーか、ホスティングサーバーへのアップロード、もしくはYoutube等動画共有サービスにアカウントを作成し、アップロードして公開することとなる。当市はサーバーではなく、Youtubeのサービスを活用している。

当館では、これまでに、3件の動画を制作・公開した。「じょうもん発見！是川縄文館」は、放送が終了していたが、ケーブルテレビの視聴者以外にも広く紹介するために公開を進めた。インターネット公開にあたり、同局で放送された番組が著作権を含め当館に譲渡された。

動画の公開にあたっては、終了しているイベント告知の部分をカットする編集を行った。動画データはDVDに収められており、低解像度（640×480）であったので、編集は比較的容易であった。加工したデータはYouTubeにアップロードし、館ホームページに動画紹介ページを作成した。紹介ページでは、各回の内容が伝わる場面をキャプチャーし、選択肢のサムネイルとした動画リストや動画プレイリストを作成し、リンクを張った。

2020年12月現在、これらの動画の中には、番組で使用されたBGMにより動画公開サイトで自動識別がなされ、視聴できないものが多数でてしまっている。



図3 じょうもん発見！（2011-2012）

「縄文ー1万年の美の鼓動 応援メッセージ」は、2018年に東京国立博物館で開催され作成・公開された動画である。動画は、主催者から、同展のプレイベントとして、出展する出土品を紹介して応援するという企画であった。当館では、学芸員が脚本をつくり、当館のマスコットキャラクター「いのるん」と共に応援メッセージを録画・公開した。撮影はデジタル一眼レフカメラで行い、PCで編集して主催者に送信した。主催者は各地の動画データを動画公開サイトにアップロードし、そのリンクを専用サイトやSNSで公開した。応援メッセージということ以外は自由であったため、各地で制作された動画の出演者は、学芸員や職員、市民ボランティアなどさまざまであり、自由で多様な番組となり興味深かった。これらの動画は、プレイベントから盛り上げイベントに変更され、会期終了まで広報された。

「推しテン！」は、是川縄文館のイチ推しの展示品を紹介する動画である。「合掌土偶」の国宝指定10周年を契機に、より多くの市民に是川縄文館を知って訪れていただくことを目的として、当市の地域おこし協力隊員から作成の提案を受けたものである。同隊員は動画制作による八戸の情報発信を担当しており、今後の動画は、場所の紹介ではなく、学芸員に親近感を持っていただき、是川縄文館のファンを増やしたいという提案があった。そのため、学芸員のおすすめ展示品を紹介する方針とした。

イチ推しの展示品選びと出演は学芸員が、撮影・録音・編集・公開は地域おこし隊員が行い、これまでに3本の動画を制作・公開した。資料紹介動画で



図4 縄文展応援メッセージ（2018）



はあるが、説明ぶりにも意識が向くことを期待し、若手学芸員を中心に制作を行った。

これらの動画は八戸市公式の Youtube チャンネルに掲載されており、全国遺跡報告総覧の「文化財動画ライブラリー」にもリンクが掲載されている。また、八戸市役所などのデジタルサイネージにてリピート再生されている。

公的機関による遺跡や文化財動画の再生回数は、縄文の動画で約154万回（2011年公開・2021年1月末）ほどであり、時間をかけて視聴されていくことが読み取れる。瞬発的な広報効果を期待することは少ないと思われるので、長期間にわたって視聴されるアーカイブとなることを意識して構成・制作をすべきだろう。

### 3. おわりに

#### （1）動画の作成と保存に向けた環境整備

近年の映像機器の進化やインターネット接続環境の整備、動画コーデックの発展により、高画質・大容量化した動画データの送受信が可能となっている。いまやフルハイビジョンが標準であり、より美しく再現性の高い4K動画の利用も増えてきている。こうした高解像度動画は、撮影データの容量が膨大で、編集には相応の能力を備えたPCや大画面が必要となるため、今後の動画を自主制作するには、高速インターネットを含めた制作環境を整備する必要がある。

さらに、元データや完成データの保存とバックアップにもまた、取組む必要があるだろう。

#### （2）新たな取り組み

2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、遺跡の現地公開の中止、博物館・美術館などの休館や展示・教育普及事業の延期や一部休止が、日本全国でみられた。

こうした事態を受けて、新潟県阿賀野市は9月に発掘調査成果を動画配信した。動画「よみがえる土橋遺跡～あがのJOMON再発見！～」は、ドローンを駆使した4K動画で、約11分で市の概要から調査

に至る経緯、調査成果について、アニメーションを効果的に使いながら、とてもわかりやすくまとめている。映像も美しく、発掘現場を紹介する動画の今後の標準となる存在であろう。

各館が暗中模索をする中、3月には北海道博物館が「うちミュージアム」をスタートし、日本全国の約220館が参加する広がりを見せている。“自宅で過ごす子どもたちが退屈せずに楽しみながら学べるアイデアを”と、動画・工作・調理・塗り絵・クイズ・パズルなど、地域色豊かなコンテンツとして各館ホームページから自由に選べるようになっている。

既存の動画を公開するコンテンツもあるが、常設展示をめぐる解説付きで巡るものや、企画展示を再構築あるいは記録したものも作成・公開された。埋蔵文化財に関するコンテンツもたくさんあり、遺跡や出土品の解説だけではなく、各館で取組んでいる体験学習など教育普及事業が紹介された。こうした動画は、各館の活動を広く伝えるだけではなく、各館事業の動画によるアーカイブの役割を果たしていくと考えられる。

#### 【補註および参考文献】

- 1) 八戸市児童科学館視聴覚ライブラリー  
<http://www.kagakukan-8.com/library/>
- 2) 奈良文化財研究所 文化財動画ライブラリー  
<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/search-video>
- 3) 映画保存協会 2019「磁気テープの適切な取扱いと保存方法」  
<http://filmpres.org/preservation/library02/>
- 4) 縄文人の生活再現／井戸尻考古館 <https://youtube.be/kAOLxAxo-Q4>  
12月からの2か月で再生回数が11万回伸びていた。再生回数の多さが、さらなる視聴につながっていると考えられる。
- 5) 北海道博物館 うちミュージアム  
<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/ouchi-museum/>
- 6) よみがえる土橋遺跡～あがのJOMON再発見！～  
<https://www.youtube.com/watch?v=Y0IblLe6pVY>